

(公印省略)

29 農林試第 5915 号
29 平成 30 年 3 月 30 日

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 29 年度病虫害発生予察特殊報第 4 号について

このことについて、本県でイチジクラシオディプロディア落葉病の発生を確認しましたので、病虫害発生予察特殊報第 4 号を発表し、送付します。

特殊報第 4 号

1. 病虫害名 イチジクラシオディプロディア落葉病(仮称)
2. 学 名 *Lasiodiplodia theobromae* (Patouillard) Griffon & Maublanc
3. 発生物種 イチジク

4. 発生の経過と概要

2016 年 5~6 月、県内の加温ハウス栽培の「蓬莱柿」1ほ場で、多数の枝の葉が急激に脱落し、枝に残された葉も手で触れると容易に脱落する症状が発生した。脱落した葉は黄化しておらず、分生子や分生子殻の形成も認められなかったが、葉柄基部の断面上部に褐変が認められた(図 1、図 2)。

当試験場で分離菌の形態を観察した結果、分生子殻は、暗褐色~黒色、球形~類球形で複数が集合し大きな塊を形成した。分生子殻から噴出した未熟な分生子は無色、単胞、楕円形、平滑で厚い外壁を持ち、その後暗褐色、2 胞、細かい縦縞模様が入り、大きさ 23.3~30.5×12.5~14.3 μ m(平均 25.9×13.0 μ m)の完熟した分生子となり、既報の *Lasiodiplodia theobromae* と類似していた(図 3、図 4)。また、ITS 領域 542bp および EF1- α 領域 564bp の増幅産物の塩基配列を用いた DDBJ の BLAST 検索の結果、既知の *L. theobromae* 菌株 (ITS:KY425745 等、EF1- α : JX464056 等) と 100%一致した。

以上のことから、病原菌を *L. theobromae* と判断した。

イチジクにおける本病害は国内では初確認である。

現在、県内での発生は「蓬莱柿」加温ハウス 1ほ場のみである。なお、本県の推奨品種である「とよみつひめ」「柘井ドーフィン」についても、接種により感染が確認された。

5. 国内での発生状況

L. theobromae による病害は、国内ではマンゴー軸腐病、カカオの果実腐敗病等、主に熱帯果樹における病害の報告がある。イチジクでの被害は本県の事例が初確認である。なお、

海外では、N.M. Çeliker ら（2009）がトルコにおいてイチジクの新芽や枝の枯れこみ症状を報告している。

6. 発生上の特徴及び症状

- （1）本病の病原菌は高温を好み、生育適温は約 30℃と考えられる。
- （2）2016 年の事例では、加温施設栽培で 5 月～6 月に葉が黄化せず離層を形成し脱落し、残った葉も手で触れると容易に脱落した。なお、症状は葉柄基部にのみ認められた。
- （3）発生ほ場では高温多湿時に他の病害を含め無防除であったため、発生が助長されたと考えられる。

7. 防除対策

- （1）発病が認められたら直ちに発病部位を除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- （2）本病に対する登録農薬はないが、2016 年の事例から発生原因は施設内の高温多湿と考えられる。このため、高温多湿条件にならないよう、ほ場管理に努める。



図 1 落葉した葉



図 2 葉柄基部断面



図 3 未成熟の分生子



図 4 成熟した分生子

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病害虫防除所ホームページ」<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況